

イワシパターンに突入 外房大原のヒラメ好期



大東沖の水深7〜10メートル前後にイワシの群れが回遊している

横流してポイントを広く探っていく



朝一番はチャンスタイム



▼タナは基本底だがオモリは引きすぎらないほうがいい



◀なんとトラフグも釣れた

●浅場だけに引きも強烈



●大原のヒラメもいよいよ大型の期待が高まる時期

エサはアジとイワシの混合

通常はエサには生きイワシが用意されるが、取材時はイワシ不足もあって小アジが半分ほど交じっていた。筆者はアジは大ヒラメに効果的であるイメージを持っている。これまでアジエサで釣ったヒラメはほぼ3キロ以上だ。反面、アジは食い込ませるのが難しく、歯形だけ付けられて放されてしまうこともしばしばだ。1キロ以下のヒラメだとアジを飲み込むまでに時間がかかることがその理由だと考えている。

アジはイワシに比べて泳ぎがおとなしいため、孫バリは背掛けにするか、あるいは孫バリは打たずにおいて、泳ぎ優先にするのがアタリを増やすコツだと思う。しかし、飲み込みが遅いアジをいかにしてヒラメに食い込ませるかには悩むところで、今後の課題でもある。



▲船のイケスにはアジとイワシが交じって入っている



▲アジエサは背掛けがおすすめ



▲アジにするかイワシにするかは悩むところ

各地でヒラメ釣りが折り返し点を迎えているが、ここ外房大原でもいよいよイワシパターンに突入する気配が見えてきた。年明けから大東沖の浅場にイワシの群れが回遊、それを狙った良型のヒラメが釣れ始めたのだ。
取材日は最大2.5キロ級にとどまっていたが、3〜5キロ級の大型も上がっており、シーズン本番はまさにこれからといった様相。例年ならイワシの回遊は2月が最盛期となるので、今号発売以降はまさにビッグチャンスだ！（詳細は44ページ参照）



●イワシパターンの本番はこれから



◎外房大原港・初栄丸 勝見 雅一船長